

242. ばんごがれいー赤酢飯

長く続けていけば、素晴らしい出会いがあることに気付かされたのは、先回の「241 . シマゾイ赤酢飯」の件。ただ、続けて「素晴らしい出会い」があることには、言及しなかった。「あるときにはあるものだ」その運命的な出会いに、ただただ驚きを禁じ得なかった。よく利用する鮮魚店の片隅に「石川バンコガレイ」の表示で2尾入りのザルが一



つだけポツンと氷台に並べられていた。もう何年も漁業統計を眺め続けて、当魚が統計に現れていないことから、統計に出せないほど漁獲量が極めて少ない部類の一つであることは、数々の新種（いしかわ旬の鯧だより®のネタとして）との出会いから理解している。

当魚の標準和名「ガンゾウヒラメ」の「ガンゾウ」は、「贗造（ヒラメ科として同定した上）」との説をWeb上で見かけた。「かわいい」の名が付けられているが、れっきとしたヒラメ類であることに間違いない。誰が「贗造」としてしまったのか。

しっとりした舌ざわり。他の鰈・鰹類とは違う「九線（キュウセン）」によく似た食感が鰈・鰹類に共通した旨味と相まって、どの鰹類・鰈類にもない一つの新しい好き素材と認識したが、あくまで当方の意見。後を引くが、これもいつ会えるかの「一期一会」。